

■米国：2017年の発電による温室効果ガス排出量は前年より4.5%減

環境保護局は2018年10月17日、温室効果ガス報告プログラムにより2017年の温室効果ガス（GHG）排出状況を発表した。これによると米国の2017年のGHG排出量は前年より2.7%減少し、大規模な発電設備の排出量は4.5%低下した。エネルギー専門誌は、この要因として石炭からガス、再生可能エネルギーにシフトが進んでいること、省エネが進み電力需要が低下していることを挙げている。